

# グンゼ株式会社

(コード番号：3002)

## 2022年3月期（126期） 第2四半期決算説明資料

2021年11月5日



# 1. 第2四半期決算概要

## I-1. 2022年3月期 第2四半期累計業績

### 連結業績

※「収益認識に関する会計基準」等を当第1四半期連結期間の期首から適用しており、前期と収益の会計処理が異なることから、増減額及び前年同期比(%)は参考表示

(単位；百万円，%)

	2022年 3月期 第2四半期	2021年 3月期 第2四半期	(*参考) 対前期		2020年 3月期 第2四半期	(*参考) 対前々期		利益率(%)		
			増減額	増減率 (%)		増減額	増減率 (%)	2022年 3月期 第2四半期	2021年 3月期 第2四半期	2020年 3月期 第2四半期
売上高	59,391	58,067	1,323	2.3%	71,027	△11,636	△16.4%	-	-	-
営業利益	3,340	1,271	2,068	162.8%	3,290	50	1.5%	5.6%	2.2%	4.6%
経常利益	3,771	1,484	2,286	154.1%	3,355	416	12.4%	6.3%	2.6%	4.7%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	5,002	222	4,779	-	2,159	2,843	131.7%	8.4%	0.4%	3.0%

収益認識会計基準等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,810百万円減少  
営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益影響はなし

前年	新型コロナウイルス感染症による損失	△938
当年	東京支社等売却益	4,486
	有価証券売却損益	656
	前橋商業施設売却に伴う減損損失	△881
	新型コロナウイルス感染症による損失	△276

## I-2. 第2四半期決算サマリー

## 機能ソリューション事業

(単位：億円)

対前年 増減		主なポイント
売上高	30	各分野において回復基調となる ◆プラスチックフィルムは、包装用フィルムの巣ごもり需要継続に加え、輸出・工業用フィルムが堅調に推移 ◆エンジニアリングプラスチックは、半導体市場向け製品とオフィス関連向けOA製品の回復に支えられ好調に推移
営業利益	18	◆電子部品は、世界的な半導体不足に伴い部材調達が難航した上、受注済案件の後ろ倒し影響もあり回復が遅れる ◆メディカルは、国内、欧州で新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、中国市場の伸長により好調に推移

## アパレル事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	△18	アパレル事業全体では、EC、通販チャネルは好調に推移も、緊急事態宣言に伴う市況低迷や夏期の天候不順などにより店頭販売が影響を受ける ◆インナーウェアは、接着技術を用いたカップ付きインナーなど差異化ファンデーションを中心にレディス商品が伸長
営業利益	1	◆レッグウェアは、緊急事態宣言再発令などによる外出・イベント自粛により、ストックの着用機会が大幅に減少したため、工場稼働停止による生産調整を実施

## ライフクリエイティブ事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	1	ショッピングセンターやスポーツクラブの臨時休業や時短営業の影響を受ける ◆不動産関連は、賃貸事業は堅調に推移も、ショッピングセンター事業では、緊急事態宣言による時短営業やイベント中止が続き、集客に影響を受ける
営業利益	△0	◆スポーツクラブは、緊急事態宣言再発令および自治体からの要請に伴う臨時休館・営業時間短縮等の影響を受ける

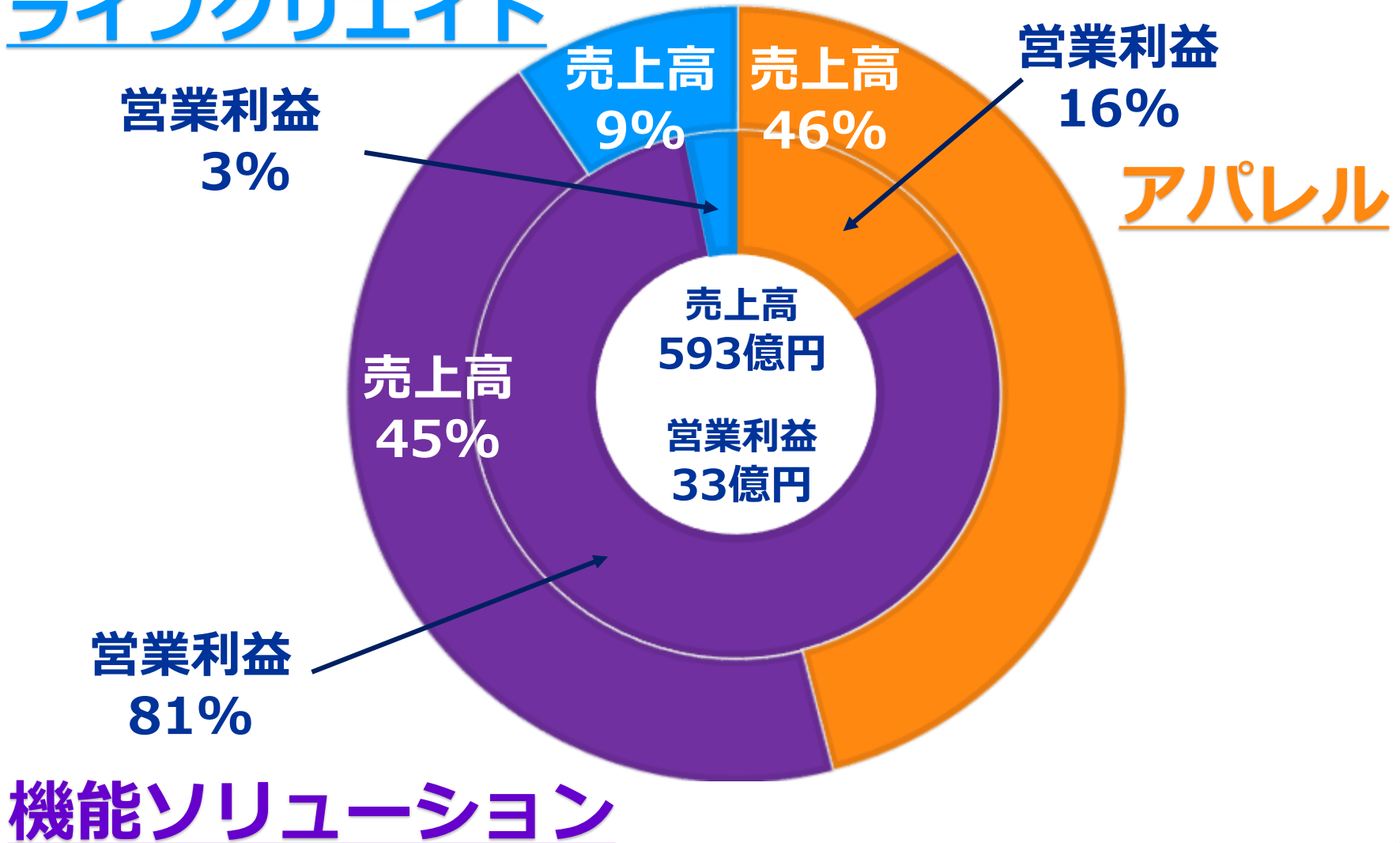
## I-3. 第2四半期累計セグメント別業績

## 連結業績

(単位：百万円)

	売上高					営業利益（下段：利益率）				
	2022年 3月期 第2四半期	2021年 3月期 第2四半期	(※参考) 対前期 増減	2020年 3月期 第2四半期	(※参考) 対前々期 増減	2022年 3月期 第2四半期	2021年 3月期 第2四半期	(※参考) 対前期 増減	2020年 3月期 第2四半期	(※参考) 対前々期 増減
機能 ソリューション	26,630	23,623	12.7% 3,007	28,253	△5.7% △1,623	3,833 14.4%	1,946 8.2%	97.0% 1,887	2,790 9.9%	37.4% 1,043
アパレル	27,445	29,257	△6.2% △1,811	35,688	△23.1% △8,243	763 2.8%	633 2.2%	20.5% 130	1,619 4.5%	△52.9% △856
ライフ クリエイト	5,597	5,490	1.9% 107	7,300	△23.3% △1,703	149 2.7%	170 3.1%	△12.4% △21	445 6.1%	△66.5% △296
合計	59,391	58,067	2.3% 1,323	71,027	△16.4% △11,636	3,340 5.6%	1,271 2.2%	162.8% 2,068	3,290 4.6%	1.5% 50

## I-4. 第2四半期累計 セグメント別構成比

ライフクリエイティブ



## I - 5 . 四半期別業績推移

(単位：百万円)

	1 Q							2 Q						
	2021年度 (22/3月期)	2020年度 (21/3月期)	(対前期)		2019年度 (20/3月期)	(対前々期)		2021年度 (22/3月期)	2020年度 (21/3月期)	(対前期)		2019年度 (20/3月期)	(対前々期)	
			増減額	増減率(%)		増減額	増減率(%)			増減額	増減率(%)		増減額	増減率(%)
売上高	28,291	25,689	2,601	10.1	34,168	△ 5,877	△ 17.2	31,099	32,378	△ 1,278	△ 4.0	36,858	△ 5,758	△ 15.6
機能ソリューション	12,755	11,472	1,282	11.2	13,054	△ 299	△ 2.3	13,875	12,150	1,724	14.2	15,199	△ 1,324	△ 8.7
アパレル	12,879	11,837	1,041	8.8	17,444	△ 4,565	△ 26.2	14,566	17,419	△ 2,853	△ 16.4	18,244	△ 3,678	△ 20.2
ライフクリエイト	2,793	2,517	275	11.0	3,781	△ 988	△ 26.1	2,804	2,972	△ 168	△ 5.7	3,518	△ 714	△ 20.3
営業利益	1,555	315	1,240	393.7	1,584	△ 29	△ 1.8	1,784	956	828	86.6	1,706	78	4.6
機能ソリューション	1,747	1,104	643	58.2	1,197	550	45.9	2,085	841	1,244	147.9	1,592	493	31.0
アパレル	407	-223	631	-	974	△ 567	△ 58.2	355	857	△ 501	△ 58.6	645	△ 290	△ 45.0
ライフクリエイト	102	143	△ 40	△ 28.7	193	△ 91	△ 47.2	46	27	19	70.4	251	△ 205	△ 81.7
経常利益	1,722	564	1,158	205.3	1,740	△ 17	△ 1.0	2,048	920	1,127	122.6	1,615	433	26.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	23	-287	311	-	998	△ 974	△ 97.7	4,978	510	4,467	876.1	1,160	3,817	329.1

※緊急事態宣言推移

①20.4.7～5.25

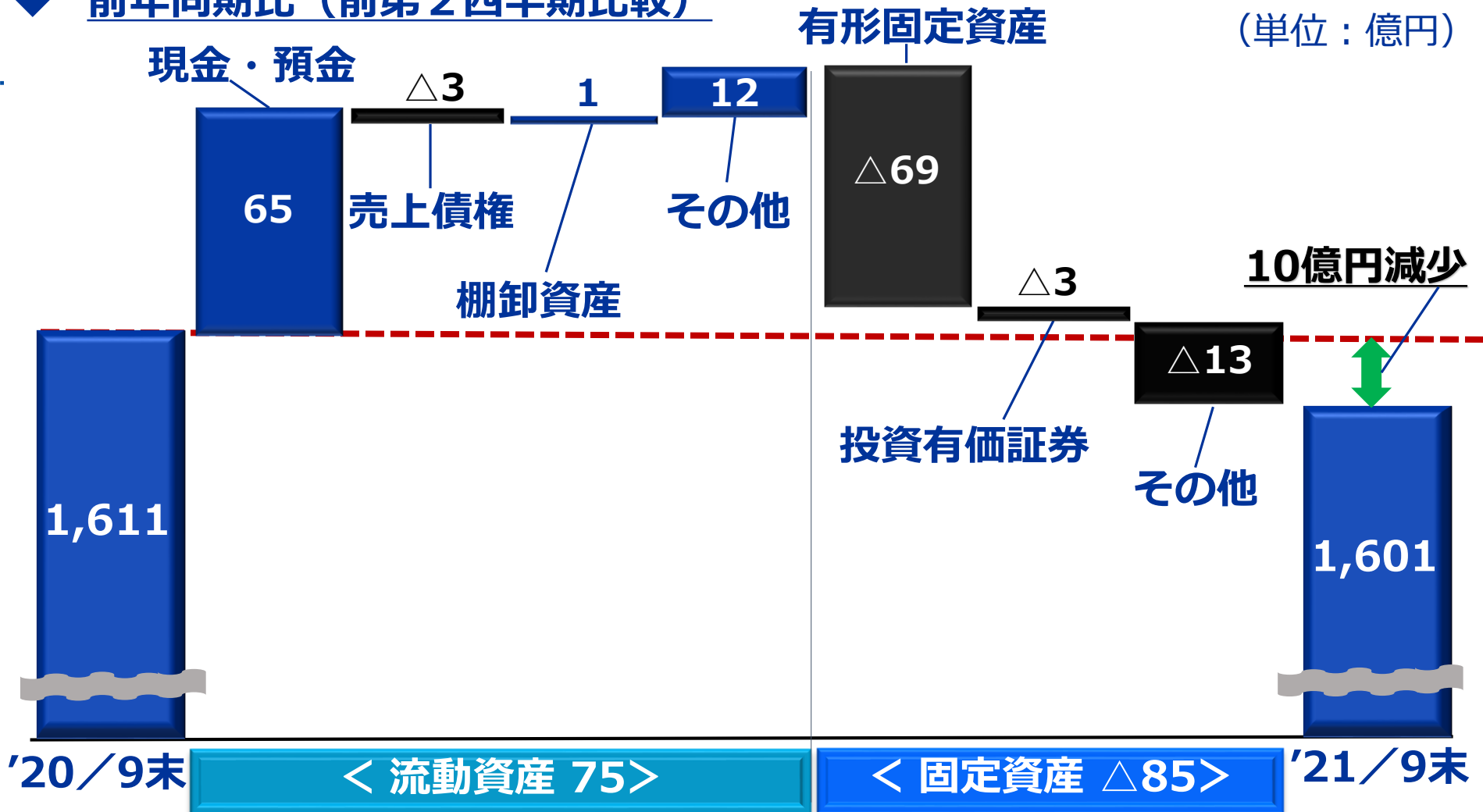
②21.1.8～3.21

③21.4.25～6.20

④21.7.12～9.30 (首都圏、関西他)

## I-6. 資産の増減内容

### ◆ 前年同期比（前第2四半期比較）





## I-7. 主要財務・経営指標(連結)

	単位	2022年 3月期 9月末実績	2021年 3月期 9月末実績	増減
総資産	百万円	160,100	161,113	△1,013
自己資本	百万円	114,679	108,277	6,402
自己資本比率	%	71.6	67.2	4.4
有利子負債額	百万円	14,889	23,351	△8,462
BPS : 1株当たり純資産	円	6,612.62	6,090.99	521.63

## I-8. キャッシュフロー

## キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2022年 3月期 9月末実績	2021年 3月期 9月末実績	増減
営業活動	3,444	145	3,298
投資活動	7,423	2,220	5,203
FCF	10,867	2,365	8,502
財務活動	△6,800	△3,499	△3,301
現金及び 現金同等物 の期末残高	14,643	8,101	6,541

## ■ 主な営業CF

税金等調整前四半期純利益	7,397
減価償却費	3,022
固定資産除売却損益	△4,347
たな卸資産の増加	△3,542

## ■ 主な投資CF

固定資産の売却	7,819
投資有価証券の売却	2,341
固定資産の取得	△2,139

## ■ 主な財務CF

短期借入金及びCPの増加	2,910
長期借入金の返済	△6,080
配当金の支払い	△2,025

## I-9. 設備投資と減価償却費

## ◆ 前年同期比（第2四半期累計）

（単位：百万円）

	設備投資				減価償却			
	2022年 3月期		2021年 3月期	対前期 増減	2022年 3月期		2021年 3月期	対前期 増減
	当期計画	2Q累計	通期実績		当期計画	2Q累計	通期実績	
機能リユース	2,700	744	6,386	△3,686	2,700	1,304	2,575	125
アパレル	1,800	507	814	986	1,400	628	1,275	125
ライフワーク	900	186	414	486	1,900	855	1,962	△62
その他	1,200	67	230	970	400	302	476	△76
合計	6,600	1,505	7,845	△1,245	6,400	3,089	6,289	111

## ■ 今期の主な投資計画

プラスチックフィルム生産設備	1,200
インナーウェア生産設備	1,100

## Ⅱ. 事業セグメント別の概況

## Ⅱ-1. 第2四半期累計事業概況

### ◆ 機能ソリューション事業 1

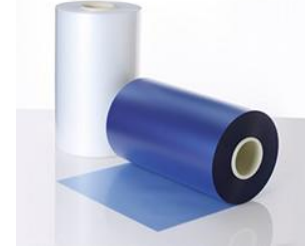
#### ■ プラスチック

環境対応型新商品の市場投入に加え、国内ではサーキュラーファクトリー（資源循環型工場）実現に向けたプロジェクトを推進。またデジタル技術導入・横展開による生産革新を進める一方、海外拡販を強化

##### ◆ 製品群

##### 概況

平板収縮	・ 飲料向けは2Qにかけ低迷。環境対応商品開発を推進
ナイロン	・ 国内は内食需要が定着、米国向けはバルーン等輸出が好調
工業用品	・ 半導体市場の活況を受け好調に推移
OPP	・ 防曇タイプやコンビニ向け食品用が回復
グローバル	・ 中国はコロナ後の受注が堅調、ベトナムも増産体制を継続



■ 工業用多層シート

#### ■ エンジニアリングプラスチック

OA関連製品のコロナ禍からの回復需要を確実に取り込み、活況が続く半導体市場向け製品を強化する

##### ◆ 製品群

##### 概況

OA向け機能商品	・ コロナ禍からの回復基調に加え、テレワーク向け需要および、中国・新興国市場の伸長により大きく増販
非OA分野	・ 前年に引き続き、半導体向け品種が好調を継続



■ 半導体製造用  
フィルターシート材

## Ⅱ-2. 第2四半期累計事業概況

### ◆ 機能ソリューション事業 2

#### ■ 電子部品

差異化技術力の向上と筋肉質経営により、損益改善に取り組む

##### ◆ 製品群

##### 概況

- |        |  |
|--------|--|
| タッチパネル | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ感染者数減少により医療用用途需要は一巡</li> </ul> |
| フィルム販売 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ OCAが半導体不足の影響を受ける</li> </ul>       |
| その他    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受託加工は加工依頼の増加により前年超となる</li> </ul>  |



■ タッチパネル

#### ■ メディカル

米国・中国を海外事業重点拠点として販売を強化するとともに、国内では(株)メディカルユーアンドエイを活用した拡販と次期大型新商品の上市を目指す

##### ◆ 製品群

##### 概況

- |              |   |
|--------------|---|
| 組織補強材        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本：胃外科領域への新規拡大を図る</li> <li>・ 中国：経済活動の回復により順調に推移</li> <li>・ 米国：中間材のスポット受注増</li> </ul> |
| 骨接合材         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本：胸部向け新製品上市により売上増</li> <li>・ 中国：頭蓋顎顔面領域で新規採用が進む</li> </ul>                          |
| 人工皮膚         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国：熱傷/外傷領域に加え、難治性潰瘍向け採用で拡大</li> </ul>  |
| メディカルユーアンドエイ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療用レーザー：大型案件に加えて個人クリニック向けも伸長</li> </ul>  |



■ ネオベール

## Ⅱ-3. 第2四半期累計事業概況

### ◆ アパレル事業

消費行動変化に伴い伸長加速しているECチャネルで更なる拡販を強化するとともに、Withコロナに対応したデジタル営業改革を推進

#### ■ インナーウェア分野

消費者ニーズの天然素材回帰、カジュアル化、健康志向に即した新素材・新商品をYG、BODYWILDブランド等で投入するとともに、差異化ファンデーションの展開強化を通じてレディスインナーの拡販を図る

- 緊急事態宣言再発令に伴う店頭販売の影響を受ける中、EC、通販チャネルが引き続き好調に推移

メンズ

レディス

- BODYWILD：カジュアルTシャツ及び成型ボクサー「3DB」が好調
- YG：ベーシック好調の中、特に高機能トップス「in・T」が拡大
- KIREILABO：リラックストrendに対応したカップ付きインナーや、新グループ「Fitte」「ブラアンデ」が好調に推移
- Tuché：新グループ「マシマロホムブラ」等の新商品が好調  
ECチャネルは2割増



Tuché



BODYWILD

#### ■ レッグウェア分野

消費者ニーズの変化に基づく市場対応力を強化し、ボトム・レギンスカテゴリーの新商品を積極的に展開するとともに、体質改善によるコスト構造改革を推進

- 外出自粛、イベント自粛の影響をストッキングで受ける

- ストッキング：コロナ影響による急速な市場縮小影響を受ける
- ソックス：レギンス、スタイリッシュボトムの拡販を推進



撥水レギンス



冷却ストレッチボトム



## Ⅱ-4. 第2四半期累計事業概況

### ◆ ライフクリエイイト事業

#### ■ 不動産関連分野

商業施設の収益力向上の推進や投資効率を重視した物件別管理を強化

##### ● SC事業の現況

- ・つかしん：休業、時短営業の影響により減収も、現在は通常営業を再開

##### ● 不動産賃貸事業の現況

- ・商業施設：新規物件（京都府綾部市：飲食店）により増収
- ・賃貸ビル・賃貸住宅：前期物件売却（新潟市：賃貸ビル、兵庫県宝塚市：賃貸住宅）により減収



■ 商業施設(京都府綾部市)

#### ■ スポーツクラブ分野

新型コロナウイルス感染拡大の影響が長期化している中、感染防止対策を万全にした上で、地域・店舗特性に合わせた会員拡大策を講じる

##### ● 国内

- ・自治体の要請等に伴い、臨時休館、営業時間短縮等を実施
- ・フィットネスの在籍者数は下げ止まりの傾向
- ・スイミングスクールは需要が根強く、在籍者数はコロナ前の水準に回復
- ・運動再開の機運の高まり等を追い風に、店舗特性に合った取り組みを実施

##### ● 海外(カンボジア)

- ・休業命令が解除されず、休館継続中



■ スイミングスクール

#### ■ 緑化分野

SDGsやグリーンインフラの流れを活かし、緑豊かな環境づくりと環境問題対応に貢献

##### ● 樹木販売

- ・植栽工事が抑えられる中、営業所間のバインド力強化で提案営業を推進

##### ● 花卉販売

- ・母の日商戦に新商品投入で前年を上回る



■ 母の日商材

## Ⅲ. 今後の見通し

【東京支社の移転について】  
2022年2月、中央区日本橋から  
港区東新橋の「東京汐留ビルディング」  
に移転予定です



東京汐留ビルディング



オフィスイメージ

## Ⅲ-1. 2022年3月期通期連結業績予想

## 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	135,000	8,000	8,200	5,600	319.33
今回発表予想 (B)	127,000	7,000	7,200	5,600	321.21
増減額(B-A)	△8,000	△1,000	△1,000	—	
増減率(%)	△5.9	△12.5	△12.2	—	
(参考) 前期実績 (2021年3月期)	123,649	4,673	5,094	2,147	120.94

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前回発表予想及び今回修正予想は当該基準後の数値

## Ⅲ-1. 2022年3月期通期連結業績予想

### 業績修正の理由

新型コロナウイルス感染症の第2四半期再拡大に伴い、  
アパレル事業、ライフクリエイト事業の需要が想定以上に落ち込む

- ・ 国内：ストッキングの着用機会が大幅に減少したレッグウエア分野では工場稼働停止による生産調整を実施した
- ・ 海外：ロックダウン(都市封鎖)が実施されたベトナムにおいて、インナーウエア分野の主力工場であるGunze (Vietnam)Co.,Ltdが操業休止(※)を余儀なくされた

※ロックダウン(都市封鎖)解除に伴い、10月1日より段階的に操業再開

前回公表の業績予想を下回る見通しとなったことから、  
2022年3月期の通期連結業績予想を修正

- ・ 配当予想については変更なし。  
2022年3月期期末配当金については公表通り、1株当たり140円を実施の予定

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります

## Ⅲ-2. セグメント別通期業績予想

## セグメント別通期業績予想

※業績予想修正：有 (単位：百万円)

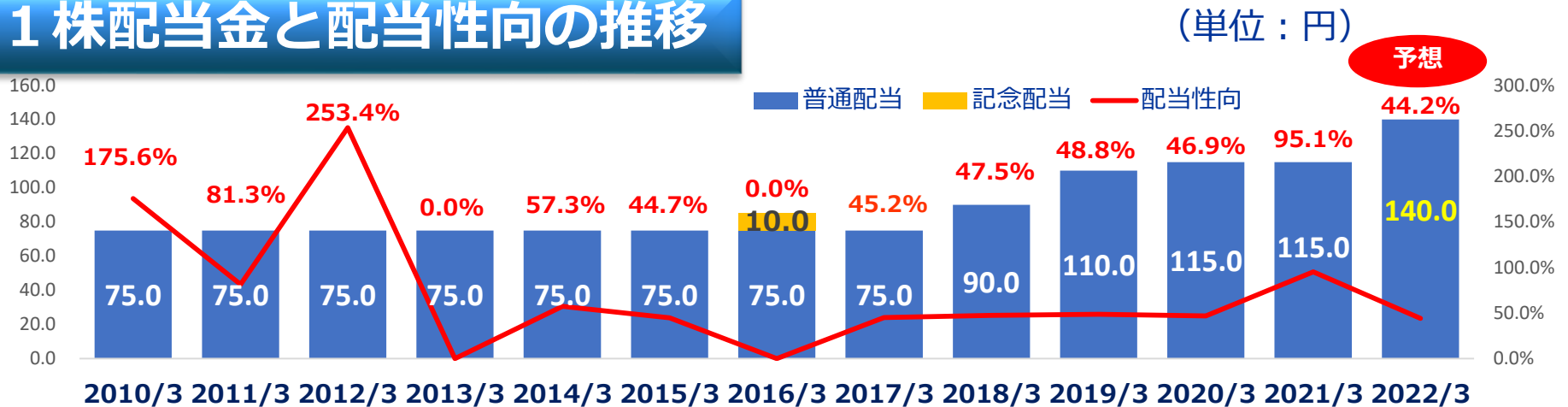
		前回予想	今回予想	増減	前年通期実績
売上高	機能ソリューション	56,100	56,100	-	49,673
	アパレル	66,000	59,400	△ 6,600	62,640
	ライフクリエイト	13,500	12,100	△ 1,400	11,976
	小計	135,600	127,600	△ 8,000	124,290
	消去	△ 600	△ 600	-	△ 641
	連結合計	135,000	127,000	△ 8,000	123,649
営業利益	機能ソリューション	7,200	7,700	500	4,852
	アパレル	3,200	1,500	△ 1,700	2,306
	ライフクリエイト	900	900	0	482
	小計	11,300	10,100	△ 1,200	7,641
	消去	△ 3,300	△ 3,100	200	△ 2,968
	連結合計	8,000	7,000	△ 1,000	4,673

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の通期予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前年増減率は記載しておりません



## Ⅲ-3. 株主還元

### 1 株配当金と配当性向の推移



### 自社株の状況

\* 2017年10月1日からの株式併合(10株を1株)に合わせて、2017年3月末以前の株数を換算しております



CAN 2 0 第 2 フェーズでは、連結配当性向 5 0 %、総還元性向 1 0 0 % を目途に利益還元を行う方針

# IV.追加資料



## IV-1. 経営上の課題

## 中期経営計画 CAN20目標に対する現状の反省と課題

項目	課題
<p>インナーウェア 生産</p>	<p><u>グローバル基幹工場であるグンゼベトナムのロックダウン及び操業停止影響を大きく受ける</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デリバリー遅れによる機会損失</li> <li>・生産基地シフトによるコストアップ</li> <li>・操業停止による費用増 他</li> </ul>
<p>レッグウェア 事業</p>	<p><u>ストッキング市場はコロナ影響により市場規模の急速な縮小に拍車がかかっており、構造改革の更なるスピードUPが必要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品カテゴリーのシフト</li> <li>・生産体制の見直し</li> </ul>
<p>原材料調達</p>	<p><u>グローバル規模でのサプライチェーンリスクの拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原油価格高騰による原料コストと輸出入コスト上昇</li> <li>・綿花の国際相場が上昇し、綿糸も高騰</li> <li>・原材料、商品等取引における為替変動リスク</li> </ul>

## IV-2. 今後の方向性

## アフターコロナを見据えた新成長戦略と構造改革について

項目	取組み内容
<b>インナーウェア 生産</b>	<p><b>更なるアセアン生産基盤の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナムの操業再開及び本格稼働(11月フル稼働)</li> <li>・持続可能な生産体制の構築(生産拠点の分散化他)</li> <li>・原材料調達の現地化(供給ルートを選択肢拡大他)</li> </ul> <p><b>市場優位性のあるスマート生産体制構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IoT/AI技術を活用したコア技術変革によるオートメーション ファクトリー化によるレディスインナー商品の進化(梁瀬工場でスタート)</li> </ul>
<b>レグウェア 事業</b>	<p><b>成長カテゴリーへのシフト加速(レギンス、スタイリッシュボトム)</b></p> <p><b>市場規模に合わせた生産、販売規模の調整(ストックング)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業部門、間接部門のスリム化</li> <li>・生産規模の適正化</li> </ul>
<b>原材料調達</b>	<p><b>価格転嫁のスピードUP</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価格交渉の早期決着により影響の最小化を図る</li> </ul> <p><b>原材料調達体制の再構築によるコストダウンとリスク回避</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原糸調達体制構築による有利購買と供給リスクヘッジ</li> <li>・調達ルートの分散化</li> </ul>

## IV-3. 環境課題対応

### CO2削減への取り組み

#### 2030年CO2排出量削減目標の引き上げ

目標指標	2024年度目標	2030年度目標
CO2排出量削減率 (Scope 1 + 2)	28%以上削減 (2013年度対比)	<b>35%以上削減</b> (2013年度対比)

- ・ 現行の2013年度対比「26%削減」から、「**35%以上削減**」(Scope1+2、海外含むグンゼグループ全体) に設定
- ・ 環境戦略推進室を設置し体制強化
- ・ Scope 3 については、※TCFD開示項目に則したCO2排出量算定及びシナリオ分析の取組みを進める
- ・ 環境省「令和3年度TCFDに沿ったシナリオ分析支援事業」に参加
- ・ 2022年度からスタートする新中期計画期間中に、Scope3の削減数値目標を設定し、サプライチェーン全体でのCO2排出量削減を推進

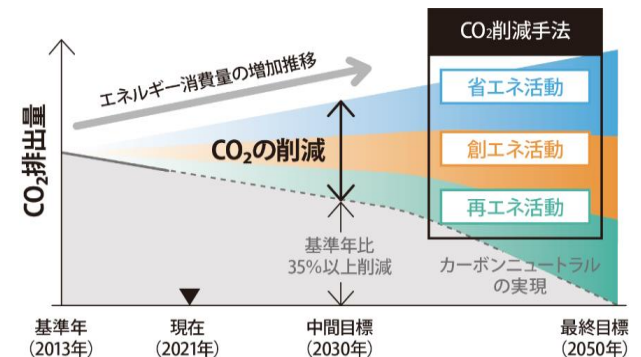
(Scope 1) 自社による温室効果ガスの直接排出量  
 (Scope 2) 他社から供給された電気などのエネルギー使用  
 (Scope 3) Scope1、2以外のサプライチェーンにおける事業活動に関する間接的な温室効果ガス間接排出量

#### TCFD (気候関連財務開示タスクフォース) 提言への賛同表明

- ・ 2021年10月、TCFD提言への賛同を表明するとともに、企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断に繋げるための取組みについて議論を行うTCFDコンソーシアムに加盟

TCFD：気候関連財務情報開示タスクフォース  
 金融安定理事会 (FSB) \*により、気候関連の情報開示及び金融機関の対応を検討するため設立

#### CO2削減のロードマップ



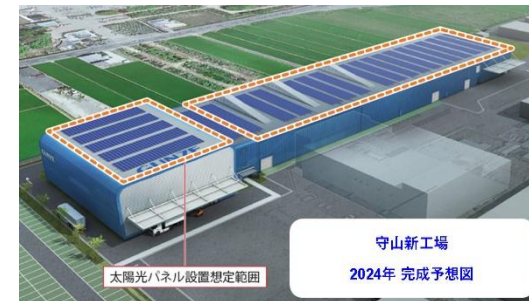
TCFD | TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

TCFD Consortium

## IV-4.サステナビリティ推進の取り組み

### サステナブル経営のための中長期的テーマと主要推進事項

テーマ	具体的施策
気候変動への対応とその緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>○CO2排出量の削減</li> <li>○廃棄物の削減</li> <li>○グリーンビジネスの展開</li> </ul>
資源循環型社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資源循環メーカーへの変革               <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃プラ分解・再利用する技術の確立</li> </ul> </li> <li>○リサイクル原料使用比率拡大</li> </ul>
サステナブルな調達の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境対応プラスチックの主力化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス・リサイクル原料比率アップ</li> <li>・循環原料100%タイプの実現</li> </ul> </li> <li>○環境配慮・循環型原材料への資材・包材拡大               <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックのカスケードリサイクル構築</li> </ul> </li> </ul>
ウェルネス&ヘルス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境に配慮したエシカル商品の開発               <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動対応型機能商品の開発</li> <li>・アシストリカバリー型商品の開発</li> </ul> </li> </ul>
人と社会への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○女性活躍</li> <li>○子育て支援</li> <li>○組織風土</li> <li>○働き方改革</li> </ul>



サーキュラーファクトリー



エシカル商品(22SS～)

# GUNZE

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。